

今回の特集は「小児の鎮静」です。日常診療で鎮静を必要とする場面は多彩で、そのいずれにおいても安全が何より優先されることは明らかです。そのような視点で、日常診療に役立つことを第一に、この領域で多くの経験、実績をお持ちの先生方に執筆をお願いしました。

まず久我修二先生には医療安全の観点から、海外における取り組みを紹介していただき、整備が遅れているわが国の現状と取り組みについて概説いただきました。わが国では「医療安全に真正面から取り組むのは小児科医である」というお言葉が大変印象的でした。

救急外来での鎮静について執筆していただいた萩原佑亮先生は「予定外、制約、不利な条件」という言葉でその特徴を表現されており、まさに的を射たものであると感じました。そのような特徴を踏まえて、救急における小児鎮静を安全に行うための系統的アプローチについてまとめていただき、さらにケタミン鎮静についても詳しくご説明いただきました。

小泉 沢先生には、集中治療で行われる鎮静の目的を明示していただき、適切な鎮静深度を達成することの重要性とその方法について説明していただきました。過剰な鎮静を避け安全な医療を提供するために、集中治療を受ける小児の苦痛をできるだけ和らげるために、いずれも必須の知識であると感じま

した。

心疾患を有する小児に深い鎮静を行う心臓カテテル検査は特殊な条件とも言えます。正谷憲宏先生には、鎮静深度を事前に正しく評価することの重要性とその段取り、さらに深鎮静と全身麻酔の違い、深鎮静に伴うリスクについても分かり易く解説していただきました。

画像検査の際の鎮静は、小児鎮静の中で最も頻用されるものと思われます。加久翔太郎先生にはMRI検査に用いられる鎮静を中心に概説いただきました。ここでも事前のリスク評価の重要性が強調されています。鎮静前の経口摂取の制限方法、鎮静中のモニタリング方法など、分かり易く説明していただきました。

鎮静中モニタリングの重要性については、いずれの先生も強調されているところですが、特集の締めくくりとして萩原重俊先生には、鎮静中の有害事象を事前に察知し回避することの重要性と、それを可能にする新たなモニタリング技術についてご紹介いただきました。

子どもの健康を守る小児医療が、鎮静という手段によって子どもを危険にさらすことのないよう、全ての小児科医の方々に目を通していただきたい特集となったと自負しております。

(高橋 孝雄)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第62巻 第9号 9月号

2021年9月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03(3811)7165 [雑誌部直通]

Tel 03(3811)7184 [営業部直通]

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。